

# AL

## ANAHEIM

### LABORATORY LOG

アナハイム・ラボラトリー・ログ

【第1話：消えた赤い機体②】

2

アクシズは、約一ヶ月前にエウーゴと同盟を結ぶ会談が行われたが決裂し、結局ティターンズ側に属する木星船団ジュピトリスと手を結ぶこととなり、エウーゴとは敵対関係となっていた。

秘密裏にガンダムタイプを運搬するエウーゴの輸送部隊と地球圏に帰還したばかりで偵察活動を行うアクシズ。それぞれ密命を帯びた部隊同士の会敵は互いの警戒の度合いが増し、戦闘に突入するのは必然とも言えた。

隊長機であるリゲルグの指揮のもと、ドラッツェ改2機とガザC3機によってそれぞれで組まれたMS小隊は、護衛のボイド・スワン中尉が乗るジム・カスタムと2機のジムIIに向けて牙を剥いた。エウーゴのMS部隊は、魔の空域の残骸を盾にしつつ、積み荷を守りながら戦闘を続ける。

ジムIIとジム・カスタムは、障害物の多さで戦力差を感じない戦いをしていたが、ガザCのナツクル・バスターによってデブリは焼き払われ、さらにパイロットの技量に勝るリゲルグとドラッツェ改の変幻自在な攻撃にさらされる。数に劣りながらも、懸命な応戦を試みるボイド小隊。しかし、リゲルグとドラッツェ改による、中・近距離からの攻撃と、ガザCによる支援攻撃は、ボイド小隊を窮地へと追い込んで行く。

状況を打破すべく、1機のジムIIが、ガザC部隊への攻撃を敢行。砲台と化していたガザCを1機撃墜するが、無謀な攻撃は3機すべての撃破には及ばず、ガザCの反撃で牽制された瞬間、追撃してきたリゲルグによる攻撃で爆散していった。残った2機で応戦するが、ドラッツェ改1機を撃破した瞬間、残るもう1機のジムIIも撃破され、ボイド中尉の乗るジム・カスタムも被弾し、左腕を失ってしまう。

覆せない窮状に対し、輸送部隊は全滅を覚悟する

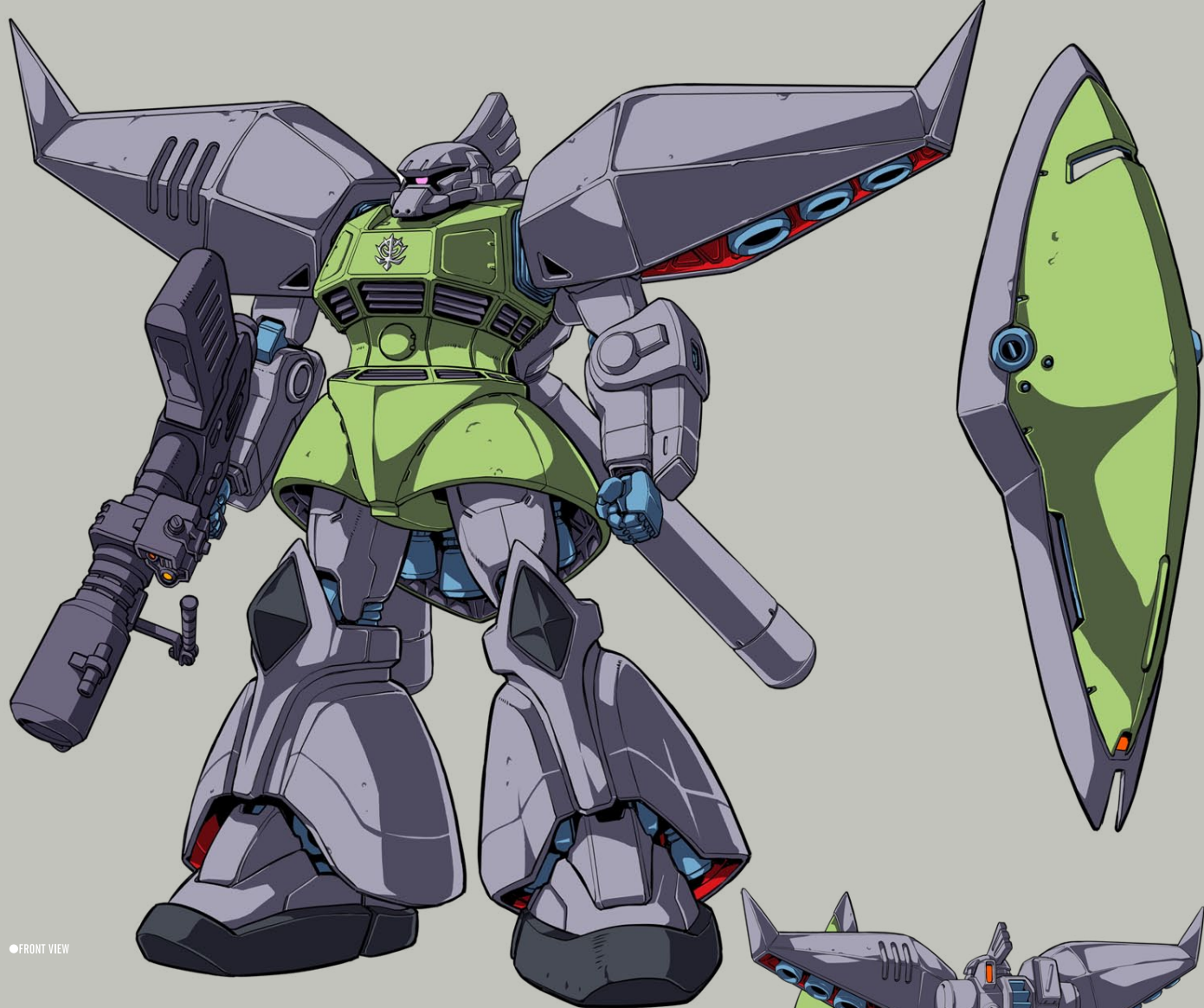
か、重要機密を持ったまま投降するかという選択を迫られていた。しかし、護衛部隊で唯一生き残ったジム・カスタムに乗るボイド・スワン中尉は、機密を何の抵抗もせずに渡す選択をするなら、ガンダム Mk・IIIをこの場で実戦に投入することを提案する。輸送部隊の責任者である船長もこの意見に同調し、ボイド中尉はボロボロとなった機体から降りて急遽ガンダム Mk・IIIに乗り込んだ。

起動したガンダム Mk・IIIは、背部の発展型アクティブバインダーによる機動性を駆使し、襲いかかるドラッツェ改に反撃を試みる。しなやかに動く四肢によるアンバックとアクティブバインダーの性能は旧世代の機体の動きを凌駕し、ベテランの乗る1機のドラッツェ改を撃墜。さらに、機動性では劣っていたリゲルグの動きを凌駕。残ったガザCの支援攻撃をかわしながら、リゲルグを追い詰めていく。急制動、急加速と俊敏な動きで舞うように砲撃を回避しつつ、ビーム・ライフルと背部のビーム・キャノンを駆使すると、リゲルグもこの赤い機体には歯が立たず、片足と片側のバインダーを失ってしまう。

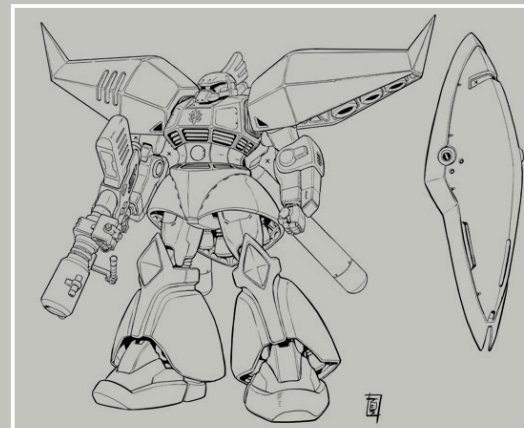
形勢を逆転されてしまったリゲルグは、最後の力を振り絞ってガンダム Mk・IIIに取り付く。動きが鈍くなったガンダム Mk・IIIに対し、残ったガザCはリゲルグ共々焼き払うような砲撃をしかける。被弾し、爆散したかに見えたガンダム Mk・IIIだが、リゲルグを盾にして撃墜を免れていた。リゲルグの爆発の影響で、各部を破損したガンダム Mk・IIIは、爆炎を突き抜けてガザCに急接近し、その本体を両断。機体は大きく損傷したが、機密を守ることに成功したのだった。

破損したガンダム Mk・IIIは輸送船に再び収納されるが、大きな損傷のために機体待つコリア1艦隊への輸送は中止となり、再び誕生の地であるグラナダへの帰還を余儀なくされてしまうのだった。

Illustration / MORUGA



●FRONT VIEW



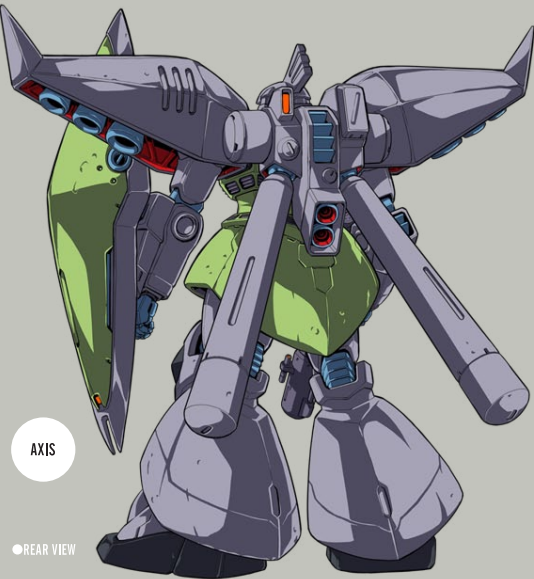
[DATA] ●全高/21.0m ●本体重量/43.7t ●全備重量/82.6t ●ジェネレーター出力/1,890kw ●スラスター総推力/150,800kg ●センサー有効半径/8,700m ●装甲材質/チタニウム・コンポジット ●武装/単発式グレネード・ランチャー、ブルバップ式360mmロケット砲

# MS-14J

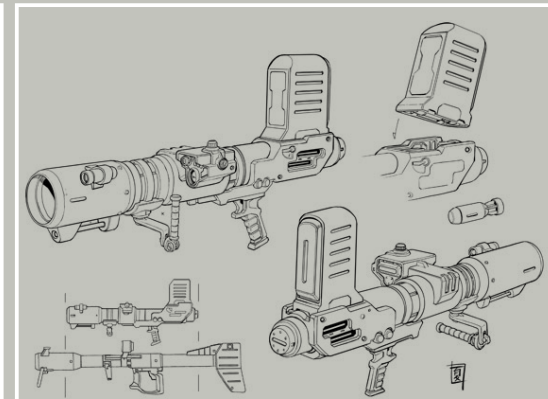
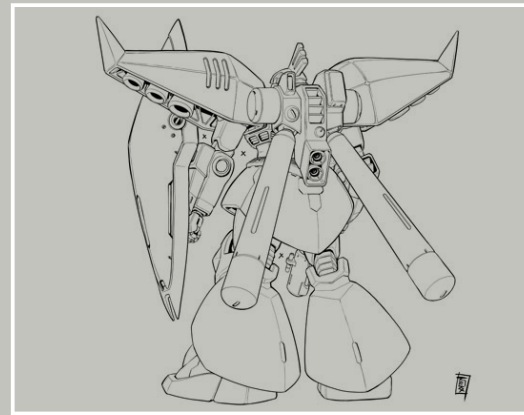
AXIS

## REGELGU

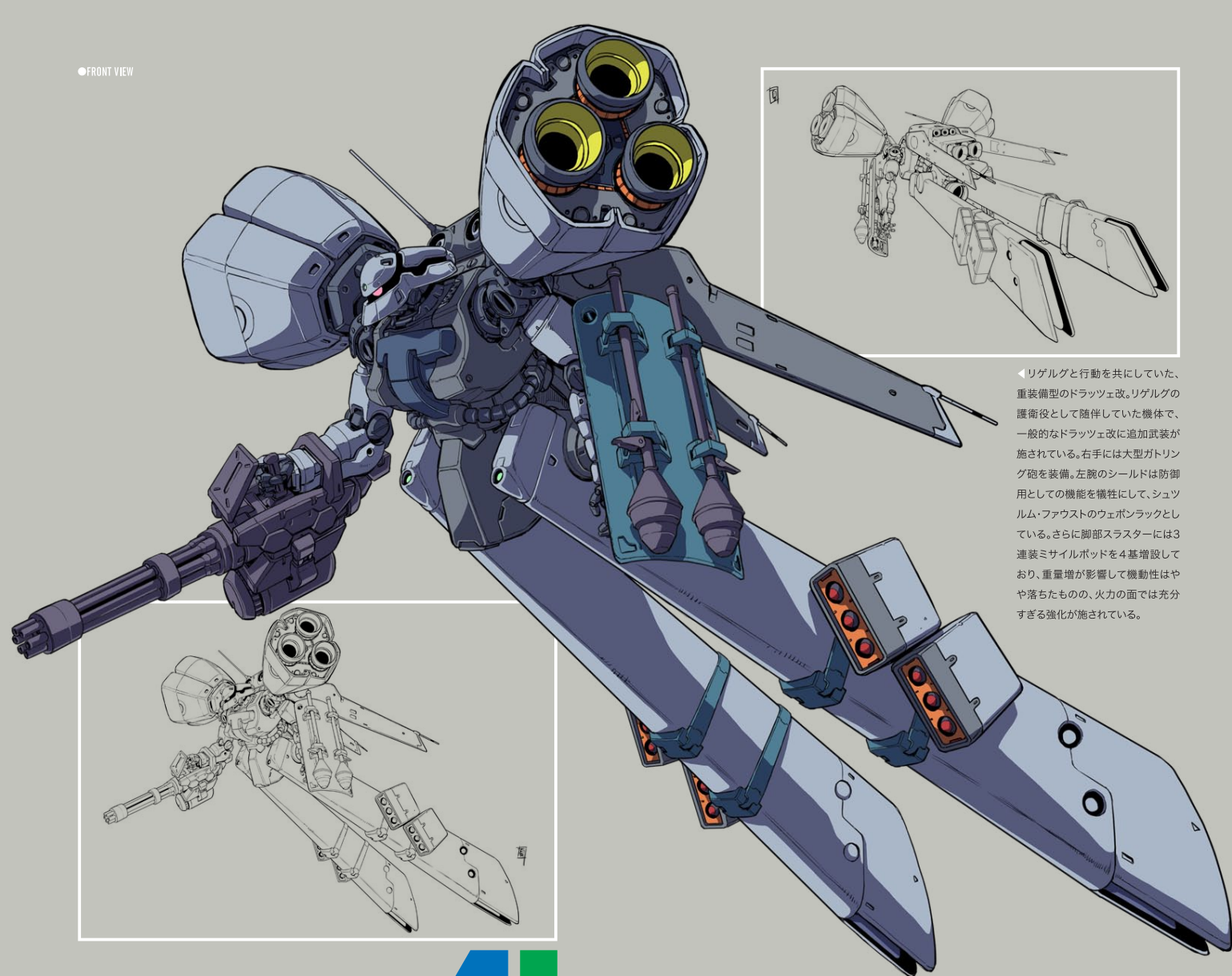
「リゲルグ（一般機）」



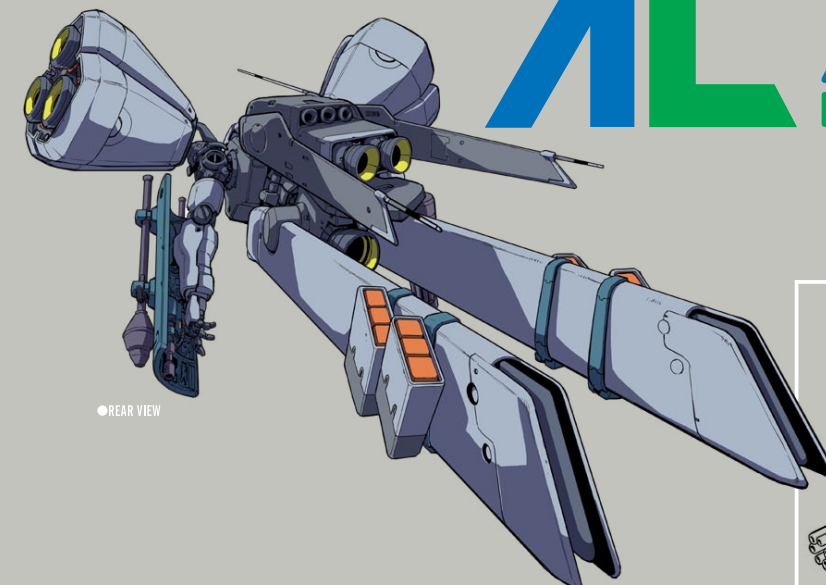
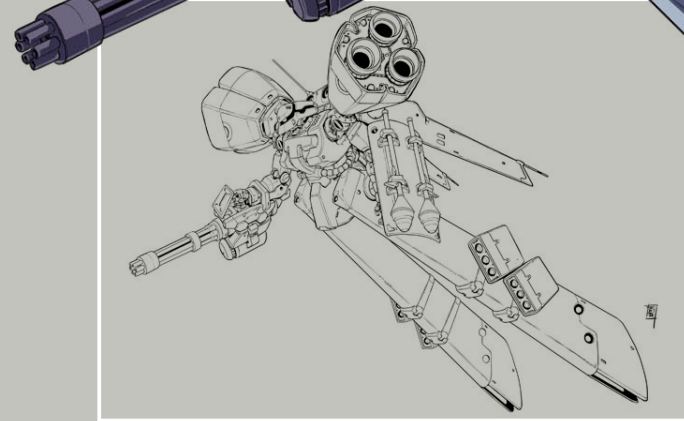
●REAR VIEW



▲リゲルグとは「リファイン・ゲルグ」の略称で、アクシズに持ち込まれたMS-14Aゲルグをベースに改修された機体である。肩部を大型化した「ウイング・バインダー」を装着することで、機動性の向上が図られている。リゲルグには二つのタイプがあり、新規に開発された指揮官専用機とは別に在来機をベースにした新兵訓練機がいくつかあった。この機体は新兵訓練機と同様にウイング・バインダーを装着しているが、母艦から遠く離れて行動することを目的としているため、バックパックが換装されている。海兵隊仕様となるMS-14FゲルグM（マリーネ）と同じバックパックの採用により、運用時間が長めとなっている。固定武装として左腕に単発式のグレネード・ランチャーを装備。主武装には砲身を切り詰めたブルバップ式360mmロケット砲を装備。これらは威力偵察を行う部隊のための装備と思われる。



●FRONT VIEW



●REAR VIEW

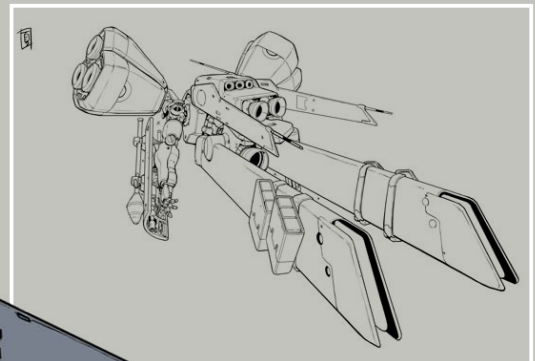
# MS-21D1

AXIS

## DRA-C CUSTOM

「ドラッツェ改（重装備型）」

[DATA] ●全高/31.6m ●本体重量/24.5t ●全備重量/65.7t ●ジェネレーター出力/596kw ●スラスター総推力/159,500kg ●センサー有効半径/10,900m ●装甲材質/超硬スチール合金 ●武装/大型ガトリング砲、3連装ミサイルポッドx4、シュトルム・ファウストx2



◀リゲルグと行動を共にしていた、重装備型のドラッツェ改。リゲルグの護衛役として随伴していた機体で、一般的なドラッツェ改に追加武装が施されている。右手には大型ガトリング砲を装備。左腕のシールドは防御用としての機能を機性にして、シュトルム・ファウストのウェポンラックとしている。さらに脚部スラスターには3連装ミサイルポッドを4基増設しており、重量増が影響して機動性はやや落ちたものの、火力の面では充分すぎる強化が施されている。

# ANAHEIM

## LABORATORY LOG

### アナハイム・ラボラトリー・ログ

#### 「第1話：モビルスーツ解説②」

Mechanic Design / 夏元雅人 Masato NATSUMOTO

